

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記）】			
事業所番号	0790300727		
法人名	株式会社Sincerely		
事業所名	シンシアリイ		
所在地	福島県郡山市三穂田町富岡字三本木原2番地82		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	令和元年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成30年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中で、利用者様とスタッフが一緒に散歩をしたり、季節に応じた企画を実行しています。また、三穂田地域のカフェに利用者様と一緒に参加し、地域の皆様の介護に関する窓口になるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 開設時に事業所が目指すケアを職員全員で意見を出し合い、自立支援、職員間の連携、地域交流を理念として策定し、事業内に掲示している。職員は自分たちで作り上げた理念を振り返りに活かしている。

2. 家庭的な雰囲気づくりに努めるとともに一人ひとりの生活状況を写真付きで毎月報告するなど家族の理解を得る取り組みが行われている。また、誕生日に利用者毎、本人の好きな果物を使い本格的なホールケーキを職員が手作りして、入居者全員でお祝いしており、楽しい時間となっている。

3. 地域の三穂田カフェの運営に職員が関わるとともに利用者も参加している。入居者の多くが近隣出身のため、地域の方と馴染みの関係の継続につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念やビジョンを基本とし、事業所の理念を独自にスタッフで作成し、実現に向けている。	開設時に職員全員で意見を出して話し合い、自分たちが目指すケアを理念に取り入れた。理念を振り返りの際、意識したり、地域の取り組みとして三穂田カフェの運営に携わるなど実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	みほとカフェを中心として、カフェの実行委員会に所属するなど、三穂田地域全域に事業所の情報発信をしている。	三穂田カフェに利用者も職員と一緒に参加し交流を深めている。また、地域の小学校の総合学習の場として事業所を開放し、子どもたちと交流する他学校行事に招待され楽しんでいる。地区の踊りや清掃のボランティアも定期的に受け入れるなど地域の一員として交流が深まっている。	町内会に加入するなど地域との協力関係をより深める取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、ケア会議を通して、各地域での困りごとの事例に関して情報を共有し、地域の一員として、意見を出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	日常の様子をお伝えすることにより、より親身になって意見をいただけている。また、次の会議に活かしている。	2か月に1回、定期的開催し、事業所の運営状況、行事、事故やヒヤリハット等報告し、意見や課題について話し合っている。対応結果を次回に報告するなど意見を活かした取り組みをしている。運営推進会議の日程をお知らせしているが、家族は1人の参加に留まっているため、参加を促すこととしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	郡山市の介護サービス相談員様が密にお話を聞いて下さり、気付き等も適切に伝えて下さるので大変ありがたいです。また、介護保険課の皆様が何か不明な点があれば、すぐに答えて下さるのでとても心強い。	市の介護相談員の訪問が月2回あり、気づきを伝えてもらうほか、市の介護保険担当窓口には疑問点がある場合にはその都度訪れ、相談している。また、生活保護利用者もおり、ケースワーカーと連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として取組む事で、スタッフ全員が同じ方向でケアを提供できている。玄関の施錠はしないなど、基本的な考えに立ち返れるようにする。	内部研修や職員会議でリスクを話し合うなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所立ち上げ後まだ日が浅いため、身体拘束等適正化指針はなく今後の課題と考えている。	身体拘束等適正化指針を策定し、運営推進会議等で取り組みについて話し合うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルのもと、スタッフ会議を中心に話し合いを行い、気付かない・気付けないということの無いよう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の情報が最優先になりがちで、介護保険制度の深い理解や教育などは行き届いていない一面がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	以前の事業所での説明が不十分な点がある為、何かある毎にその都度説明し、ご納得されている。新規利用者様に関しては、契約時に理解や納得を得てから、契約に入っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事での来所時に、事業所側から積極的にコミュニケーションを取り、意見を出してもらえようような関係性や雰囲気づくりを目指している。	面会や行事、家族が対応して受診する際に家族の意向を伺っている。利用者は日々の生活の中から意向を把握するように努めている。面会が少ない家族も多く、課題に挙げ家族面談の実施を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて定期的に要望や発信したい事を出してもらい、時期や期限を決めて、意見の精査をしている。	スタッフ会議で要望や意見を把握している。また、役員、管理者がそれぞれ職員面談を行い、意見の把握に努め運営に活かしている。今回、グループホームの費用、特に加算について勉強会を開き、利用者家族の質問にも分かり易く説明できるようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に事業所に出向き、管理者から状況を聞いている。また、管理者で意見が止まることの無いように気を付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修がまだ実現出来ていない。2人1組での同行勤務だけでは、限界があるので、研修に力を入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、親睦会への参加もしています。その中で、実務者同士の経験談などを参考に、介護サービスの質の向上に向けた意見を参考にしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時の初動の聞き取りや、対応がとても大事と考えており、ヒアリングを徹底しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様のご自宅へ訪問し、ご本人を取り巻く環境の確認を重要視します。また、常にご本人様がどうしたいかを問いながら、ケアしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様は、本当にグループホーム利用を希望しているのか。介護保険全体の枠組みで選択肢を示すことをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の日常生活で、ご自身で出来る事は行っていたり、また一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族のこれまでの関係性を把握し、それぞれから信頼されるような関係性の構築を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様のこれまでの生活をしっかり重視し、以前から関係のあった方との関係性が継続できるように支援していく。	事業所の地域から入居している利用者が多く、近隣を散歩することで馴染みの方から声をかけられたり、野菜をもらうなど関係が継続している。また、毎月出張美容を受け入れ、新しい馴染みの関係も出来つつある。新聞のチラシを見て行きたい場所が出されるなど今後の取り組みに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様毎の個性や生き方を活かして、お互いが関わり合い、上手く付き合えるお手伝いをスタッフが努める。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービス事業所の情報を可能な範囲で収集し、お互いを高めあう、そして協力し合うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人との時間を大切にし、考え方や想いを汲み取る。自分らしい生き方のお手伝いをしている。	居室担当を中心に本人の意向を把握するよう努めている。お風呂やおやつ作りの時に思いや意向を聞いたりするなどなるべく出しやすい雰囲気づくりをしている。自分らしい生き方をお手伝いするということを基本に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査などの精度を高め、これまでの暮らし方を様々な面から想定し、サービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の時間配分で、生活が出来るようにサポートしていく。日々の状態や行動、言動を記録に残し、スタッフ会議で協議している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の話を伺い、スタッフ会議の中で情報を共有し、主治医からの情報を加えて、介護計画を作成している。	居室担当がモニタリングを行い課題を把握している。利用者や家族の意向、主治医の情報も入れて職員会議で共有しながら計画を検討している。安定してる場合は6か月、変化が見られる場合は3か月で見直す他ケースによっては随時見直をするなど、現状に合った計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に毎日の生活の様子や表情、スタッフの気づきを記入し、その大切な記録をもとに実践し、定期的に見直しもを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の意向や状況を逐一把握し、本人の要望で、訪問マッサージ等を利用するなど、外部のサービスと協力しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様のご家族からの情報をもとに地域資源を把握している。外出や散歩などからも、その機会をつくれるよう努力をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族のご意向を汲み取り、かかりつけ医との連携を図っている。事業所の連携医療機関を希望の際は、適切な情報の発信に努めている。	本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医の継続や訪問診療を取り入れている。受診の際は、直近の利用者の健康状態や日常生活の状況を医師に伝え、家族の協力のもと適切な医療を受けている。また、受診結果については、「往診受診・記録表」に記載し職員間で情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日頃から気になる事を管理者や看護職員に報告をし、そこから主治医の指示を仰ぎ、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要に応じてスタッフが同行し、情報の共有に努める。また、同行しないのであれば同行しているのと同等の資料を準備し、ご家族にお渡ししている。また、その後も病院、主治医と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に説明をしています。ただし、事業所での加算算定は行っておりません。しかしながら、今後も重度化が予想される時点で、医師とも連携を図っていきます。	入居契約時に本人とご家族に対し、重度化した場合や終末期におけるケア対応の指針を説明し、事業所で対応可能な内容について理解を得ている。現時点では、看取り介護についてのスキル保有者は管理者に留まっているが、今後職員への教育を図っていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の緊急連絡網を整備しており、必要に応じた体制をスタッフと共に想定している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに従い、水や食料の備蓄を進めている。また、今後は消防署の立会を含めて避難訓練を実施する予定。	事業所開設後1年を経過しているが、消防署立会による総合防災訓練はまだ実施されていない。災害時の緊急連絡網に近隣住民の方々の協力を得る等、地域との協力体制を構築している。また、非常時の災害に備え、飲料水や食料等も備蓄している。	消防署立会の総合防災訓練の実施や火災や地震のリスクを想定した自主訓練を含め、非常災害対策計画を策定し職員誰もが対応できるよう数多くの防災訓練を実施して欲しい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や生活環境を尊重し、敬う気持ちを常に持ち、それぞれに合った接し方をするよう努めている。	入社時に接遇に関する教育の実施や、スタッフ会議で利用者への話しかけ方や言葉遣いについての話し合いを行う等、職員の接遇スキルの向上を図っている。また、職員が互いに注意しあいながら、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中からその方への思いや希望を汲み取り、お話しやすい環境づくりを心掛け可能な限り、選択肢を示し、お声がけをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位になるように、利用者様が主体となるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の嗜好を確認し、出来るだけ本人の好きなものを選んでいただくよう、心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の盛り付けや、食器洗いなどの後片付けをスタッフと一緒にしている。	食材提供サービスを利用し、事業所側で利用者の要望に基づいて献立のアレンジを行っている。また、お寿司やラーメンの出前をとる等の対応も行っている。食事の下ごしらえ、食後の後片付け等も利用者と一緒に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じて、それぞれの食形態に合わせて提供している。水分量のチェックも行い、必要な水分量を保持している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、声掛けを実施し、口腔ケアをしていただいている。ご自身で難しい場合は、スタッフの支援のもと実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様毎に、排泄のパターンを掴めるよう支援している。最後までトイレで排泄が出来るように支援している。失敗した際は、声掛けに注意している。	利用者一人ひとりの排泄状況を確認しながら利用者の排泄パターンを把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と体操を行い、無理のない排便が出来るようにしている。また、主治医と看護職員と連携し内服薬でも調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のご希望に沿った入浴を行っている。入浴が苦手な方は、声掛けの方法やタイミングを工夫し、週2回以上入浴できるよう支援している。	入浴は、利用者の希望と体調を見計らいながら、週2回以上入浴できるよう支援している。また、入浴を拒む利用者に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースやご希望に合わせて、好きな時間に休んでいただいている。室温や湿度の管理も行い、安心して休んでいただくような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護職員とで管理をしている。また担当職員を中心に薬の目的や副作用などの理解に努めている。また、主治医に状態の変化時は連絡を必ず入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態やこれまでの生活歴や趣味嗜好を把握し、出来る事はしていただき、やりがいを感じていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望に沿った外出支援を心掛けています。また行事を定期的に計画し、お花見や菊人形展に出かけ支援している。	事業所周辺の散歩などの日常的な外出支援をしている。また、個々人の利用者の希望については、家族の協力を得ながら、買い物や墓参り等の機会も作っている。事業所の行事として近くの公園での花見やイルミネーションスポット等に出掛けしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方が多いため、外出先での飲食や日用品の立替は事業所で対応している。契約時に説明をし、金銭の持ち込みは極力行わないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望がある場合は、職員が電話をかけ、ご本人と代わってお話をさせていただく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が安心して、過ごせるような環境作りを目指しています。季節感を大切に、その季節に応じた企画や花を飾り、空調や	日々の清掃や換気、温度・湿度管理を適切に行っている。壁には季節を感じさせる飾り付けを行い、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気心の知れた利用者様は、近くに席を準備したり、交流が苦手な利用者様には、孤立しないように職員が仲介するなどの対策を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人様、ご家族と相談しながら、馴染みのものや好きなものを持参していただき、居心地よく過ごしていただく。	居室には、記念写真や家具など馴染みの物の他、利用者の希望によりテレビなどを持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。日々職員が居室の掃除を行い、気持ちよく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、ネームプレートを準備し、混乱を招かないように努めている。ご自身で、好きな時に居室に戻れるように、自立できる環境の支援をしている。		